

**SSKP 船橋障害者自立生活センター**

55

# うえいぱニュース 2007年11月

〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F  
URL : <http://www.cil-funabashi.org/>

TEL : 047-432-4554 / FAX : 047-432-4565  
E-Mail : [cil-funabashi@cil-funabashi.org](mailto:cil-funabashi@cil-funabashi.org)

## 2007年度 ピアカウンセリング長期講座のお知らせ

船橋障害者自立生活センターでは夏の集中講座に続いて、長期講座を下記の要綱で開催いたします。

今回は、ピア・カウンセリング集中講座を受講した経験のある方に限らせていただきます。ご自分の障害を受容し、感情をもっと開放してみませんか。

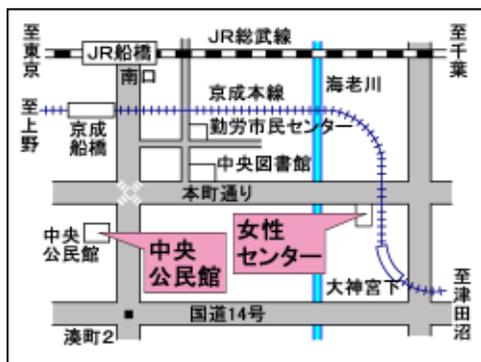
- ◎主 催：船橋障害者自立生活センター
- ◎期 間：2007年12月5日（水）～ 2008年2月27日（水）  
1月2日を除く毎週水曜日
- ◎時 間：午後1時～4時30分
- ◎資 料 代：5,000円
- ◎参加資格：障害をお持ちで、ピアカウンセリング集中講座受講経験のある方
- ◎会 場：船橋市中央公民館および船橋市女性センター
- ◎定 員：8名（参加者多数の場合は選考させていただきます。）
- ◎申込締切：2007年11月27日（火）
- ◎申し込み・問い合わせ：船橋障害者自立生活センター  
電 話：047-432-4554 FAX：047-432-4565

※ 介助者はご自分でお連れください。

※ 詳細については募集締め切り次第、FAX または電話でご連絡いたします。

## 2007年度ピアカウンセリング長期講座プログラム

第1回	12月5日(水)	午後12時30分より受付開始 オリエンテーション リレーションを作る ピアカウンセリングってなに？	中央公民館 体レク室
第2回	12月12日(水)	ニューアンドグッツ 人間の本質	中央公民館 第2集会室
第3回	12月19日(水)	ニューアンドグッツ 感情の解放	女性センター (予定)
第4回	12月26日(水)	ニューアンドグッツ 障害について	中央公民館 体レク室
第5回	1月9日(水)	ニューアンドグッツ パターンについて	中央公民館 体レク室
第6回	1月16日(水)	ニューアンドグッツ 抑圧について	中央公民館 体レク室
第7回	1月23日(水)	ニューアンドグッツ アプリケーション ※力について（時間があれば）	中央公民館 体レク室
第8回	1月30日(水)	ニューアンドグッツ 信頼することについて	中央公民館 体レク室
第9回	2月6日(水)	ニューアンドグッツ 自己主張トレーニング	中央公民館 体レク室
第10回	2月13日(水)	ニューアンドグッツ サポートすることされること	中央公民館 体レク室
第11回	2月20日(水)	ニューアンドグッツ リーダーシップについて	中央公民館 体レク室
第12回	2月27日(水)	ニューアンドグッツ 自立生活プログラム Q&A 良かったこと学んだこと	中央公民館 体レク室



### ■ 中央公民館

〒273-0005 船橋市本町2-2-5

TEL : 047-434-5551 FAX : 047-434-5558

交通 : JR 船橋駅から徒歩約7分

または京成船橋駅から徒歩約5分

### ■ 女性センター

〒273-0003 船橋市宮本2-1-4

TEL : 047-423-0757 FAX : 047-423-3007

交通 : JR 船橋駅から徒歩12分

または京成大神宮下駅から徒歩約5分

# 2007年度集中ピア・カウンセリング講座を終えて



山本 明

今年度の集中ピア・カウンセリング（以降ピアカンと略す）講座は8月4日（土）の13時から6日（月）の12時までの2泊3日、市中央公民館で開催された。主催は「船橋福祉相談協議会」、実施団体は「船橋障害者自立生活センター」という体制で行なった。ピア・カウンセラーには、自立生活センター「IL 文京」の村山美和さんをお願いした。サブリーダーは、私、山本が努めた。

受講者は6人。そのうち5人が精神障害者であり、身体障害者は1人だけであった。

## 1 日目

### 1. プログラムの始めはオリエンテーションとリレーション

ピアカンのプログラムの中で序章ともいえる重要な位置を占める。お互いの関係、つながりを作ることは、この3日間のピアカンが受講生たちにとって、もっとも有益な3日間にするためにも必要であることはいうまでもない。今回のピアカンが成功裏に終わったのも特にリレーション作りが全体を引き締めたからだろうと思う。

### 2. ピアカンってなに

このプログラムは、ピアカンの説明である。しかし、ただの説明ではない。なぜ私たちはピア（仲間）でなければならないのか。ピアカンが私たちにとって生きていくうえでどれほどに大切、かつ重要であるかを、受講生一人ひとり知っていただく。

なかには初めての受講生もおり、ピアカンについての説明をあらためて行なう。これによってピアカンを理解してもらった上で進行していく。そうして初めてピアカンを感じ、お互いの関係が生まれていくのである。今回はリレーションとピアカンについての説明で受講生の関係性、つながりがとてもよくできた。

### 3. 人間の本質

人間の本質を冒頭にもってきたことでピアカンの重要なプログラムの一つが理解されたと思う。人は愛し愛され、知性に満ち、創造性、喜びにあふれているのが、すべての人の本質。このプログラムの中でよく言われる言葉であるが、今回もピア・カウンセラーが受講生全員にこの言葉を言い伝えた。この言葉以外に人間の本質についての考えは人それぞれだろうが、ピアという言葉の裏にはこうした考えが隠されているのだと、私は考えさせられた次第である。もうこのあたりまで進んで行くと、受講生みんなが連帯感をもち、明日を希求していることがよくわかる。初日のプログラムはこれで終了。

## 2 日目

### 1. ニューアンドグッツ

2日目はニューアンドグッツで始まった。ニューは新しいこと、新しいことの発見を意味する。グッツは良いことの複数形。

まずは2日目を迎えた受講生1人1人が初日の終わりから今日の朝までの間に体験したことをそれぞれが話す。その中でニューアンドグッツを見つけ、探すのである。

このときの皆の晴れ晴れした表情を私は一生忘れないだろう。半日を終えたばかりだ。

受講生の顔が輝いている。ピアカンの偉大さを思い知らされた私であった。

### 2. 感情の解放・信頼すること

私たち障害者は、普段の生活の中で抑圧を受けながら生きている。ということは文字通り健常者のように明るくはできない人が多いことをさしている。それだけに感情を解放することが大切ではないかと思う。

ピアカンで感情を解放することが重要と考えられてきた所以でもある。特に精神障害の人たちにとっては、なおさら新しい自分を発見するためにも、明日の自分を切り開いていくためにも大切なことだろうと思われる。お互いセッションを繰り返していく中でこそ感情のテンションは上がっていく。それだからこそデモンストレーションが必要とされる。デモンストレーションは公開セッションとも呼ばれ、私はいつもこれを経験するたびにピアカンの数ある方法の中ですばらしいと驚嘆せざるにられない。それは今回の受講生皆にも言えるのではないかと思う。涙する人もいれば、今までの自分の生き方に対して自問する人もいた。

ここまでくるといかにお互いを信頼することが大切かということを感じずにはいられなくなる。ここにもピアカンの働きがでてくるようだ。それが自己信頼につながり、自分をめぐる周りの人たちとの信頼へと大きく発展する。

### 3. 障害について

ここでは自分の障害と、いままでの生い立ちについて考えてみる。障害をもってよかったこと、悪かったことをセッションで話し合う。泣きながらクライアントの話を聞く人もいれば、また泣きながら自分の障害について語る人もいた。こうして自分をしだいにあからさまにしていくことができるのである。本来の自分にたちかえることができる。ピアカンのプログラムには随所に、忘れかけた自己を取り戻す仕掛けが組まれている。

### 4. ほめほめワーク

ほめほめワークとは、英語でアプリーションといい、つい最近までピアカンではこの言葉を使用していた。このほめほめワークは、いくつかの決まりがある。相手と比較しないこと、また否定的に言わな

いこと、あくまで肯定的に誉めること。人に感謝して、誉め合うことで、自分にもそれが返ってくるとしたら、アプリーションの意義は語り尽くせないだろう。一方、昨日今日知り合っただけの仲間である。それが急に誉められることには何か恥ずかしい思いがするものである。しかし、前にも書いたが、誉められることで気持ちが悪くなる人はいない。

その頃になるともう、旧知の間柄になるように見えるから不思議である。

2日目はこれで終わる。あとは親睦を兼ねた夕食会だけである。

## 3 日目

またニューアングッズから始まる。

### 1. 自立ってなに

ピア・カウンセラーの村山美和さんが自分の自立した過程を話された。みんな村山さんの話に聞き入った。

今回のピアカンは精神障害の人が多く、中に一人だけ眠れないことでつらい目に遭った人がいた。

私にとっては初めてのサブリーダーの経験であった。非常に勉強になったことは確実で、今後ともピア・カウンセラーとして励みたい。センターのスタッフ、また船橋福祉相談協議会の皆様にも教えをいただきたい。さらにピアカンのサポートもできるようになりたい。



# わがセンター “テレビ沙汰” になる！！

9月27日（木）、わが自立生活センターの事務所は、メンバーの一人が通院で欠勤だったこともあり、静かな朝を迎えていた。

午前10時半、その静寂を破るように（大袈裟な!!!）、電話が鳴り響いた。

テレビ朝日のディレクターを名乗る女性からだった。用件を訊ねると、「民主党が自立支援法の改正案を国会に提出することについて意見を聞きたい」と言う。わがセンターののんきな代表は、てっきり電話インタビューだけの取材と思い込み、日ごろ思っていることをあまり深く考えずにスピーカーホンに向かってしゃべった。

ひと通りしゃべり終わると、電話の相手は「じゃ、午後から行きますから、今おっしやつたことをカメラの前でお話していただけますか」と、ビックリするようなことを言う。・・・というわけで、呆気にとられる暇もなく、わがセンターが突然にテレビの餌食になることが決まってしまった。代表は、あわてて上着を取りに自宅へ帰り、ついでにビデオの録画予約をセットして事務所へ戻った。

電話での約束は午後3時だったが、少し早く午後2時半、女性ディレクターと二人のカメラクルーを乗せた足立ナンバーのハイヤーが事務所の前に止まった。



ディレクターと名刺を交換して、打ち合わせを兼ねて自立支援法をめぐるよもやま話をする。聞けば、「自立支援法改正案の国会提出に合わせて取材対象を探すべく、『自立生活』などのキーワードで新聞記事を検索していたら、たまたまわがセンターが引っかかった」とのこと。何とも「泥縄」を絵に描いたような話だ（ウチのセンターも他人様のことは言

えないかもしれないけど・・・）。

午後3時、撮影開始。代表の胸にピンマイクがセットされ、事務所の床にカメラとライトのスタンドが立つ。ディレクターの問いかけに代表が答える形で約一時間の撮影が終わった。「やれやれ・・・」と思ったのもつかの間、今度は事務所での仕事風景を撮りたい、ということで、事務所の窓を開けて外から覗き込む形での撮影。二階に住む大家さんが、「何事か」とばかりに上の窓から顔を出す。別にセンターが「事件」を起こしたわけじゃないのに・・・。



午後5時、事務所を閉める時間となり、慌ただしい一日もこれで終わるとホッとしたら、まだ「最後の難関」が待ち受けていた。代表の自宅まで同行して、生活の様子を撮ることになってしまった。事務所から自宅まで電動車イスを走らせる様子も撮影され、道行く人が一様に振り返る。

自宅に着き、鍵を開ける。こんなことならもう少し掃除をしてあげばよかった、と思ってもすべては後の祭り。机の上には書類や本が散乱し、室内干しの洗濯物が無造作にぶら下がっている部屋の中へ「報道ステーション」のカメラが入ってきた。

「日常の生活の様子を撮りたいので、普段どおりにリラックスしててください」と言われても、狭い部屋の中でテレビカメラが至近距離で動いている状況の中で、そう簡単にリラックスできる気分ではない。一応、パソコンを立ち上げてインターネットでニュースをチェックする「フリ」をする。

6時になり、夕食を作るヘルパーがやってくる。ドアを開けると、いきなり中でテレビ



カメラが狙いを定めて待ち構えている。何も知らされていないヘルパーにとっては、まさに「ドッキリカメラ」のような状態である。「撮影用」と称して、ドアを開けるところからやり直しをさせられたりして、やっと中に入ることができた。夕食のメニューなどについて話をして、料理の準備を始めるあたりまでを撮影して、三人のスタッフはようやく引き上げて行った。

嵐のような一日がとにもかくにも終わった。いろいろな疲れが一気に噴き出してくるような感覚に襲われる。事前に連絡できなかったことをヘルパーに詫げる。夕食を終えて何とか少しは落ち着きを取り戻した。

夜。「報道ステーション」の放送が始まる。折からミャンマーの騒動で日本人カメラマンが犠牲になるという重大事件が発生し、それがトップニュースで、30分以上の時間を費やして専門家による解説を交えて詳しく報じられた。

次のニュースが「政局コーナー」ともいふべき枠組みで、福田内閣の支持率、対する民主党がいくつかの法案を提出する準備をしていることなどが伝えられ、その中のひとつが自立支援法で、翌日に国会に提出する予定、という内容だった。わがセンターの様子や代表のコメントなどは、そうした流れの中で、いわば「刺身のつま」のような形で紹介された。



結局、取材時間は4時間に近く、カメラが回っていた時間だけでも3時間近い。にもかかわらず、実際に放送に使われた部分は1分足らず。メディアとはそういうもの、といってしまえばそれまでだが、何となく釈然としない。たぶん、何も知らない視聴者には、わがセンターの活動内容も、代表が本当に言いたかったこともほとんど伝わってはいないはずである。

取材した側からすれば、あの日の主眼はあくまでも「政局」であって、「障害者問題」ではない、ということになるのかもしれない。そのことは、翌日の同じ番組で、民主党が自立支援法の改正案を正式に国会に提出した、というニュースが伝えられた際、ナレーションのバックに前日に放送された事務所内の風景が、今度はご丁寧に「ボカシ入り」で使われていたことから明らかだ。だが、果たして本当に障害者問題が政局のネタになっているのだろうか。そして、もしネタになっているとすれば、それは喜ぶべきことなのか、悲しむべきことなのか。



障害者と政治の関係や障害者とメディアの関係など、いろいろなことを考えさせられる出来事であった。

10月19日（金）・11月1日（木）

## 香澄小学校で道徳の授業に参加

10月19日と11月1日、習志野市の香澄小学校で5年生の道徳の授業に参加しました。

この学校は以前から道徳教育に力を入れているようで、子供たちが車椅子に乗って学校の周りを通ってみる「車椅子体験」が先に行われていて、今回はその時の感想を発表したり、実際に日常的に車椅子を使う「ナマ障害者」の声を聞こう、という企画でした。

とはいえ、「ナマ障害者」に与えられた時間は15分足らず、あまりまとまった話はできませんでしたが、障害者の問題を真剣に考える姿はそれなりに新鮮でした。でも、「脳性マヒ」という病名という障害名を聞いたことのある子供が一人もいなかったのは少しショックでもありました。

2回目は子供たちから「ナマ障害者」への質問を出すコーナーも設けられ、なかなか充実した内容でした。「今までで一番嬉しかったバリアフリーの設備は何？」といういい質問も出ました。

「人の立場に立って考える」のは大人になってもむずかしいこと。これからも今の純粋な気持ちを大切にしてほしいなあ、とナマ障害者は思ったのでした。



10月30日（火）

## 「障害者自立支援法」 全国大フォーラム

日比谷野外音楽堂で開かれた“私たち抜きに私たちのことを決めないで！今こそ変えよう！「障害者自立支援法」10.30 全国大フォーラム”に参加しました。

当日は、全国各地の障害者による実態報告や各政党によるシンポジウムなどが行われましたが、同時に行われた厚生労働省前の集会と併せた参加者は6,000人と発表され、確かに見た目にも昨年の「大行動」に比べると少なく、「静かな集会」という印象でした。

どうしても自己負担の問題が強調される中で、「自立支援法」の小手先の見直しの前に、私たちにとって自立とは何なのか、基本的な問題に立ち返った内部での議論が必要なのは、という素朴な疑問を感じて帰ってきました。

## 事務局の動き

### 8月

- 4日（土）ピアカウンセリング集中講座
- 5日（日）ピアカウンセリング集中講座
- 6日（月）ピアカウンセリング集中講座
- 7日（火）パソコン教室

### 9月

- 25日（火）パソコン教室
- 27日（木）テレビ朝日「報道ステーション」取材・放映

### 10月

- 2日（火）パソコン教室
- 4日（木）国際福祉機器展見学
- 9日（火）パソコン教室
- 12日（金）連合レセプション（帝国ホテル）
- 13日（土）理事会
- 16日（火）パソコン教室
- 17日（水）相談支援事業ヒアリング  
（立ち上げ支援事業助成金関連）
- 19日（金）習志野市立香澄小学校の道徳の授業に参加
- 23日（火）パソコン教室
- 24日（水）自立支援協議会（市役所）
- 26日（金）相談支援事業立ち上げ支援事業書類提出
- 27日（土）市役所にて「ふらっと船橋設立1周年記念シンポジウム」

## 会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いいただいていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようお願いいたします。

年会費は、

正会員 3,000円

賛助会員 5,000円

団体 10,000円

となっております。

### 同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、カンパ（もちろん強制ではありません）などを送っていただく際に、便利のように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

### 冬期休暇のお知らせ

まだちょっと気が早い感じですが、年末年始のお知らせです。

センターは12月29日（土）から1月4日（金）まで冬期休暇になります。

介助依頼の予定のある方はお早めにお願ひします。

それではみなさん、よいお年を。



### カンパのお礼

8月以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

厚くお礼申し上げます。（順不同）

小川里 為村清美 福元高明 前田満子

### 編集後記

障害者自立支援法という法律をめぐるドタバタは、政局をめぐるドタバタと絡み合って、見通しが立たない状況になっているようです。結果的に被害をこうむるのは個々の障害者と、その生活を支えている介助者や事業所、という現実には相変わらずです。困ったもんだなあ。

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21  
身体障害者定期刊行物協会  
頒価 100円